

課題名 CGによる建築表現3「色彩・形状による室内表現」

指導教員 門馬 進

研究の目的

室内空間は様々なパーツ（窓、壁、天井、床・・・etc.）からできていて、それらのパーツの色彩や形状によって人に与える印象は異なる。そこで、どのような色彩や形状の室内空間が最も安らぎを与えるのか調べる。

研究の方法

① Lightwave 3D ソフトを使用して、正面の壁に窓を開け、壁・天井に色を付けた部屋を作成した。

部屋のサイズは色や形による印象の違いを比較するため、高さ2×幅4×奥行き6の直方体型と高さ2×幅2×奥行き6の立方型の2通り（図1～4）、窓の種類は均等な間隔で天井から床までの大きな窓が複数開いていると、壁の隅に小さな窓が1つだけ開いているものの2種類とし（図5～8）、壁・天井の色は9色（赤、ピンク、白、黄、青、水色、緑、黄緑、黒）とした。→合計36種類の部屋

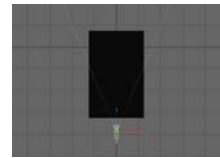


図1-直方上面

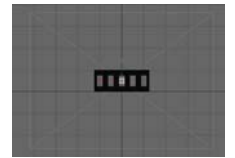


図2-直方正面

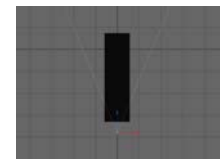


図3-立方上



図4-立方上

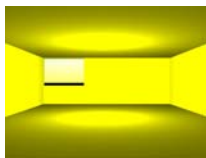


図5-直方窓

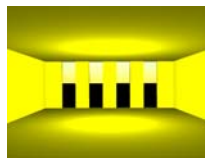


図6-直方窓(大)



図7-立方窓(小)



図8-立方窓(大)

② ①で作成した36種類の部屋について科学技術高校の高校3年生を中心に約20人にアンケートをとった。アンケートの質問内容は、それぞれの部屋を見たときの印象を、対義語ごとに書かれている16個の語句（表1）をプラスの印象とマイナスの印象に分類し、プラスの印象の上限を+3、マイナスの印象の下限を-3として+3～-3の中からレベルを1つ選んでもらった。

また、語句の印象のレベルを選んでもらうのとは別に、それぞれの部屋から連想する事を『～に見える』という形で自由にも書いてもらった。

◎：プラスーマイナス

1：楽しいー悲しい

2：安心ー不安

3：暖かいー寒々しい

4：にぎやかー寂しい

5：リラックスするー緊張する

6：開放的ー狭苦しい

7：軽いー重い

8：日常的ー神秘的

表1-使用した対義語ー

- ③ ②でとったアンケートから、各部屋の語句の印象のレベルの平均値を出し、これが正であったらプラスの印象、負であったらマイナスの印象となる。0に近ければ特定の印象を与えない、もしくは人によって印象は全く異なるということになる。また、部屋に対する『～に見える』という回答は、似通った回答があった場合それはほとんどの人に対して同じようなイメージを与えるということがわかる。

結果

アンケートを集計した結果、室内のデザインが与える印象は形よりも色によって変わる事がわかった。同色の4種類の部屋の目立った印象を比較して、全てに共通している印象を、その色の部屋の印象とする。「イメージ」はその部屋から連想する事(～に見える)を自由に書いてもらったものだ。それを表2にまとめた。

色	印象	イメージ
赤	不安、緊張、暖かい	暑い、危険、殺されそう
ピンク	楽しい、暖かい、にぎやか、軽い	甘い、子供、恋愛
白	寂しい	病院、殺風景
黄色	楽しい、にぎやか	子供部屋、眩しい、豪華
黄緑	リラックスする	自然、森、落ち着く
緑	寒々しい、寂しい、狭苦しい、重い、神秘的	森林、洞窟、暗い
青	寒々しい、寂しい、重い	海、宇宙、水族館
水色	リラックスする、寒々しい、寂しい	水、空、無機質、事務所
黒	寂しい、日常的	監獄、怖い、硬い

表2-アンケート結果

考察

この結果から、赤・青・緑などはマイナスな印象を与える事がわかる。しかし、一般的に赤は行動力・華やかなどといったプラスの印象を与える色とされており、窓が開いていても部屋という閉鎖された空間が圧迫感を与え、原色特有の色の濃さが負の印象を与えたと思われる。これは、青、緑にも同様のことが言える。白は、清潔・純粋などの印象を与える色だが、白だけに囲まれているとその色の特徴が目立ち、他のものが周囲にないことを際立たせ、喪失感や寂しさを感じさせるようだ。黒は他の色と同様に圧迫感やその色のイメージから負の印象を与えたが、それと同時にコンクリートの壁を連想させ、日常的という印象も強いようだ。以上の色以外(ピンク、黄色、黄緑、水色)の淡色は、色が薄い事からあまり圧迫感を与えず、プラスのイメージが強いようだが、水色などの寒色系の色は負のイメージも持たせ得る。淡色の中でも中間色である黄緑が一番安心感を持たせることがわかった。

まとめ

この調査から、色彩・形状が与える印象は形状よりも色彩が与える印象の方が強く、暖色系の淡色・中間色が一番安らぎの空間には適している事がわかった。